



H29- 問題 79

安全管理

度数率(労働災害の発生頻度)

災害発生の頻度を表す度数率を求める式として、正しいものはどれか。

- (1) 度数率 = $\frac{1\text{年間における死傷者の総数}}{1\text{年間の平均労働者数}} \times 1000$
- (2) 度数率 = $\frac{1\text{年間における死傷者の総数}}{1\text{年間の平均労働者数}} \times 1000000$
- (3) 度数率 = $\frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延労働時間数}} \times 1000$
- (4) 度数率 = $\frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延労働時間数}} \times 1000000$

解答 4 度数率は、労働災害の発生頻度を表す指数であり、100万延べ労働時間あたりの労働災害による死傷者数を示している。よって、(4)が正しい。

解説 労働災害の発生頻度等の指標には、強度率・度数率・年千人率がある。度数率は、災害発生の頻度を表す指数である。強度率は、災害の重篤さを表す指数である。年千人率は、労働者1000人あたりの1年間の死傷者数を示す。それぞれの指標の計算式は、下記の通りである。なお、度数率と強度率については、厚生労働省が災害の指標として定めたものである。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延労働時間数}} \times 1000000$$

$$\text{強度率} = \frac{\text{労働損失日数}}{\text{延労働時間数}} \times 1000 \quad (\text{労働損失日数} = \text{暦日による休業日数} \times \frac{300}{365})$$

$$\text{年千人率} = \frac{1\text{年間における死傷者の総数}}{1\text{年間の平均労働者数}} \times 1000$$



H28- 問題 79

安全管理

墜落災害の防止

墜落等による危険を防止するための措置に関する記述として、「労働安全衛生法」上、誤っているものはどれか。

- (1) 踏み抜きの危険のある屋根上には、幅が25cmの歩み板を設けた。
- (2) 高さが2mの作業床の端、開口部には、囲いを設けた。
- (3) 脚立は、脚と水平面との角度が75度のものを使用した。
- (4) 移動はしごは、幅が30cmのものを使用した。

解答 1 (1) スレート屋根などのように、踏み抜きの危険がある屋根上には、幅が30cm以上の歩み板を設けなければならない。よって、(1)は誤り。